

# みつくら

令和 5年 6月15日 第388号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## 自治公民館の花壇に花植え

去る6月3日小雨の中、第7区自治公民館（菅原清孝館長）では、「環境整備事業」として、ふれあい花壇の花植え、敷地内の草取り・草刈り作業を行った。輪番制で今年は、4班の方々と役員14名でアゲラタム100本、マリーゴールド黄色100本、マリーゴールド橙色100本、ペゴニア赤色50本、ペゴニア白色50本の合計400本を手際よく植えた。

## 葛丸の農村環境を守る会が総会

農地・水環境団体である葛丸の農村環境を守る会（板垣幸夫会長、構成員235戸）の総会は、4月29日に21名が出席して大瀬川構造改善センターで開かれた。菅原清昇副会長の開会で始まり、板垣会長は「農繁期にも関わらずお忙しいところ出席下さいまして有り難うございます。お陰様で構成員の皆様のご協力で計画通り事業を行う事ができました。令和5年度は第2次5カ年計画の最終年度に当たりますので、残された課題に向けて活動してまいりたい」と挨拶した。運営委員会規則により板垣会長が議長となって進められ、議事録署名人に板垣由喜さんと菅原一禎さん、書記は菅原得之事務局を選出した。

令和4年度の事業報告では、畦畔一斉草刈に1,110名、大排一斉草刈に110名、早朝一斉草刈に164名、3ヶ所の花壇植栽に139名、自生花菖蒲園保全（野点の会含む）に41名、給水栓やパイプラインの修理など農業施設修理に151名など合わせて、延べ2,857名の構成員から協力をいただいたと報告があった。一方、会計報告では農地維持活動が約1,148万円、資源向上共同活動では約726万円、資源向上長寿命化活動では約799万円、合わせて総額2,673万円の決算が報告された。

会計の菅原純一さんは「年々、国からの交付金が減額され、令和4年度は前年度より約200万円少ない中での事業なので、構成員からの要望に添いにくくなっている」と話していた。

## 農地・水団体が草刈りの安全作業研修

葛丸の農村環境を守る会（板垣幸夫会長、構成員235戸384名）では、5月3日から3日間3ヶ所の会場で、草刈り作業時の安全研修会を行った。これは、同会が毎年行っている畦畔一斉草刈りや、大排水路の一斉草刈り、さらに早朝一斉草刈りなどの作業に、怪我や事故防止の目的で研修をしたもの。

5月3日は7区自治公民館で18名が、4日は大瀬川振興センターで8区が26名、5日には稲豊自治公民館で18名、合わせて62名が研修に参加し作業の安全意識を高めた。教材DVDの操作は、3会場とも板垣公さんが担当した。

前年の同時期はイノシシ被害の対処研修であったが、今回は昨年発生した県内での草刈り作業中の死亡事故を受けた内容であった。

安全作業のポイントは、作業間隔を充分取る、堤や池などの草刈りを行う際は単独で行わない、誤って池に落ちた場合に備えてライフジャケットを着用する、さらに救助用のロープなどを必ず用意しておくなどであった。

板垣幸夫会長は「何の作業でも同じですが、必ず2人以上で行うことと、装備を完全にしたい」と話していた

## 7区で上水道が断水

5月12日に7区の約50戸に上水道の断水が発生した。原因は板垣忠夫さん宅と畠山勝敏さん宅の中間付近、市道大瀬川線脇の水道管から漏水したことによるもの。当日は午前6時頃から7区の高台方面から水の出が悪くなり、午前7時には7区内の90%が断水した。

通報を受けた岩手中部水道企業団では、午前7時45分に広報車を出し「現在給水施設が故障し断水が発生しています。間もなく7区自治公民館に給水車が来ます」などと広報した。

8時には2トン車に給水ローリーを積んだ給水車が7区自治公民館に到着し、住民に給水を始めた。時間の経過とともに断水の戸数も次第に増えて、午前10時頃には給水車に来た人は16名だった。夕方までに何人が給水に来たのかは不明だが、一人に5〜6枚の水袋（1袋に6ℓ）が渡されている。この水袋は便利で、紐がセットになっていて背負うことも出来るというものだった。

当初、企業団でも断水の原因が分からず、黒森貯水槽（旧大地渡家の西山頂上）が空になっていたのが分かったくらいであった。企業団に聞いたところ「漏水が多量の場合は探知機で分かるが、今回は少ない漏水で、何日かかかって貯水槽が空になったと思われます」とのことだった。漏水箇所が分かったのは午後2時頃で、修理を終えて供給を再開したのは午後4時頃。

給水再開後はどの家庭でも濁り水が出て、綺麗な飲料水になるまでには次の日までかかった家もあった。尚、企業団の給水車は午後6時に撤収している。

大瀬川での水道管漏水はこのほかに令和4年1月25日に大瀬川橋の上水道2号管の空気弁が破裂し、噴水状態になったが、このときは幸い家庭への断水は無かった。

## 大瀬川でイノシシに豚熱経ロワクチン

大瀬川で5月23日に野生イノシシに豚熱経ロワクチンを投与する作業が行われた。作業は、豚熱経ロワクチンを混ぜたトウモロコシなどを材料としたビスケット状の餌を、猪の通り道に置いたり埋めたりして、5日〜7日後に食べたかどうかを確認する。花巻猟友会の3人と県免許資格保持者の菅原教雄さんから4人が実施したもの。

豚コレラは平成30年9月に国内で26年ぶりに発生し、その後急激に野生イノシシへと感染が拡大して、岩手県でも令和4年4月に捕獲された野生イノシシに初めて感染が確認されている。

豚コレラを豚熱と呼称変更したのは、令和2年2月の家畜伝染病予防法を改正した時からである。大瀬川での豚熱経ロワクチン投与は、令和4年11月以来2回目である。

## 菅原さんが「花巻第九の会」演奏会に出演

「エコークズまる」でも活躍している菅原智子さんが、5月14日に花巻文化会館で開かれた「花巻第九の会・テラムジーク第2回定期演奏会」に出演し多くの拍手に包まれた。

演奏会は3部構成で、第1部「ポラーノの広場」は開幕と同時に菅原智子さんを含めた正規の混声団員25名が「精神歌」や「イーハトーヴの風」など4曲を披露した。第2部は「注文の多い音楽会」で、ゲスト4人のプロ歌手による歌声を堪能した。

2時間半にわたった演奏会で、特に圧巻であったのは、第3部の「理想郷イーハトーヴ」で、ベートーベン交響曲第九番ニ短調第四楽章。音楽に疎い筆者も聞いた事のある有名なこの演奏には、正規合唱団のほかに、各地から応援に駆けつけた特別参加者35名、それに市内高校生や楽器演奏者など総勢76名が、男性は白のYシャツと蝶ネクタイ、下衣は黒のスラックス、女性は白のブラウスと黒のロングスカートの服装で統一して臨んだ。迫力のある演奏に会場が感動に満ちたひと時であった。

花巻第九の会は令和2年に結成し、昨年5月に第1回の定期演奏会を今回と同じ花巻市文化会館で開き、菅原さんはその時にも舞台上に立っている。

## グランドゴルフ同好会が例会で練習

ちょっと古い話になるが、令和3年12月8日に大瀬川グランドゴルフ同好会が発足し、グランドゴルフを楽しんでいる。発足時から会長は菅原敬夫さんで、世話人を熊谷レイ子さんが担っている。

会を立ち上げたきっかけは、新型コロナウイルス感染症の影響で行事が無くなったのを機会に、グランドゴルフ愛好者で組織したもの。発足時の会員は13名であったが現在は7・8・9区の18名が在籍している。冬季も大瀬川構造改善センターで毎月2回、水曜日にグランドゴルフを行っている。

# みつくら

令和 5年 6月15日 第388号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

**板垣さんが研究所を設立**  
 令和4年11月に板垣崇志さん（上野々家）が、盛岡市山岸に「しゃかいのくすり研究所」を設立した。  
 事業内容はアート活動の支援で「障がいのある人が自分の人生の主人公であることを取り戻すための事業」とのこと。  
 同研究所のHPには「二十数年にわたり、知的な障がいや精神の障がいと共に生きる方たちの造形活動を支援する中で見出し、精錬した支援技能の要をお伝えます。その技能の核心を一言で表すならば、作品ではなく作者を見つけること。アートの専門性などの特殊な素養ではなく、相手に対する注意深さと誠実さこそが柱となる、どんな支援者にも開かれた技能です。人間の表現活動の場面を介して、対人支援の本質を発見する研修となります。これまで受講した方々からは「あまりに楽しくてあっという間だった」「予想もしない内容で驚きと発見の連続」「明日から支援の現場に入るのが楽しみ」「職場の他の職員にも受けてほしい」など、非常に好評をいただいていると掲載してあった。  
 板垣さんの今後の活躍が楽しみである。

**金ケ崎町の「堤草刈りで死亡事故」で啓発ポスター**  
 葛丸の農村環境を守る会では、岩手県多面的機能支払推進協議会から送付された「ため池は危険」のポスターを3ヶ所の堤に立てた。  
 この啓発活動は、令和4年7月23日に農地・水活動で金ケ崎町西根吉田沢の堤で、作業者が草刈り中の転落死亡事故がきっかけ。葛丸の農村環境を守る会では、ビオトープ活動として高井沢組堤と萬吉堤、助作堤の3ヶ所を届けていて、その3ヶ所に立てたもの。  
 看板作りは菅原清昇さんでポスターには「ため池は危険」「ため池に落ちたら、はい上がることは絶対無理」「ため池で作業する前に緊急時の連絡体制を確認してから。浮き輪やロープの準備をしたか」と書いてある。また、ため池で溺れている人を見つけたら「消防署などに通報する」「空のペットボトルなど浮く物に捕まらせ、救助を待つ」「ロープなどを使い、複数人で引き上げる」などと対策が書かれている。

葛丸の農村環境を守る会で取り組んでいるビオトープ活動とは、自然の中に広がる「生きものの暮らす場所」を保全する活動で、ため池の草刈りや、在来魚の放流、親子環境学習などを行っている。

**農事組合法人大瀬川が総会**  
 農事組合法人大瀬川（板垣忠夫代表理事）の第9期通常総会は、4月27日に書面議決によって開かれた。同法人の決算期は2月末で通期は3月1日から翌年2月末日となっている。  
 令和4年度の耕作面積は小麦が約74町歩、大豆は約13町歩、飼料用米が約15町歩であった。営業総括として「小麦は順調に生育したが、個々の圃場で生育にばらつきが生じ、麦の発芽を促す必要がある」「飼料用米は移植方式が6割、直播方式が4割で、生憎8月の降雨で一部倒伏が見受けられた」と報告している。

**6月の運動公園環境整備は9区**  
 6月3日の朝、時々雨が振る中、大瀬川運動公園と県道13号線沿いやチェーン着脱所の草刈りや草取りの環境整備を9区の方々48名が行った。  
 刈取後の草は予め畠山孝二区長さんが5台のトラックと補助車を手配して草捨て場に搬送した。  
 昨晩からの雨で運ぶ草が重く、搬送する作業が大変そうだった。東海地方では線状降水帯による被害が出ていた

**釣り大会のお知らせ**  
 葛丸川淡水魚愛護組合（菅原 昇組合長）では、6月25日葛丸川山祇神社付近で釣り大会を開催する。時間は朝5時受付で6時～8時まで。  
 前日の24日午後2時から釣り大会場所付近の草刈りを組合員で行い、同時に検査キットを使用して初めての葛丸川の水質検査を行う。  
 また、午後3時頃には大瀬川子供育成会の子供達と一緒に、葛丸川上流のポケットパーク付近で、「ヤマメ」と「イワナ」の稚魚約1,000匹を放流する予定となっている。  
 組合では釣り大会への多数の参加を呼びかけている。

**人 事**（敬称略）

葛丸川上堰水利調整組合  
 会 長 菅原 昇（再）  
 副会長 熊谷幸夫（再） 菅原幸福（再）

**板垣さんが「森のアトリエ写真展」に出展**  
 板垣弘清さんは、4月28日から3日間にわたって江釣子ショッピングセンターで行われた「森のアトリエ写真展」に5点の写真を出展された。その写真展を大瀬川写真クラブの熊谷律夫さん、菅原榮一さん、菅原得之さんが鑑賞した。出展者は板垣さんを含めて9人で、それぞれテーマに沿った作品であった。板垣さんは何れも北秋田市の「森吉山の冬景色」をテーマに

「ブナ林遠望」「威厳」「行軍」「峰照」「昔ばなし」と題した樹木の姿を写したもの。「威厳」の写真は、まさに威厳そのもので、樹木で特別大きな塊が他の樹木達を従えているような作品であった。

**今年も畦畔一斉草刈りが始まる**  
 今年も葛丸の農村環境を守る会（板垣幸夫会長、構成員235戸384名）では、6月1日から7月30日までの61日間の8時30分から16時30分までの作業時間で畦畔一斉草刈りを実施している。例年通りに大瀬川地区の点呼場所は大瀬川振興センター入口となっている。  
 会では、「くれぐれも怪我のないよう安全に徹し、夏場の健康管理も考慮した無理のない作業を行ってほしい」と毎回話している。

**下大瀬川美土里の会 幹線道路を一斉草刈**  
 下大瀬川美土里の会（高橋義晃代表）では、秋までに4回の草刈りを予定しており、6月3日の午前中に1回目を実施した。  
 今回は、44名が主に幹線道路と枝線道路脇を5組に分かれて作業を行った。今年も地主による草刈りが行われている箇所があり、途中から自作地の草刈りも行いながら、作業報告書を提出して作業を完了した。

**事務室 お気軽にお入り下さい**  
 6月1日の午後3時頃に県道盛岡和賀線の小屋場橋付近で乗用車同士の事故があった。幸いにも死亡事故にはならなかったが、1台は運転席側のタイヤが取れていた。事故現場に来た警察官は事故の目撃者を探していたが誰も見ていなかったため、事故状況の確認が大変だったようだ。  
 破損状況と現場検証である程度の事故経緯が把握できるが実際の原因は判らない。そのために今は「ドライブレコーダー」が必要とされ、新車時に付属されている車種もある。また、前後方や衝撃で24時間記録することのできる機種もある。  
 先日、自動車保険の担当者に聞いたところ、「是非付けて頂きたい。価格に開きがあるが、最低でも時間と場所（ナビゲーション機能付き）の購入をお勧めしたい。それは事故経緯の把握には必ず必要とされるため」とのことだった。「これによって、事故経緯が100%わかるのでお互いに保険対応がスムーズになるので検討して見て下さい」と教えられた。  
 事故はいつ起こるか分からないのですぐに購入した

**訂 正**

○5月15日号交通安全啓発広告塔が倒れるの記事で、「野裕二さん宅付近」は「菅野裕二さん宅付近」の間違いでした。  
 ○大瀬川の無火災連続の欄で、「424日」は「224日」の間違いでした。